

第4学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情、場面の様子を想像しながら読むことに課題がある。 説明文の中心を意識しながら、読むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に置き換えながら考えたり文章の言葉一つ一つに着目したりして読むことができる指導が必要である。 要旨と要点を意識させて中心をとらえ、読み取らせる指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情や情景を想像させるために、言葉一つ一つに着目させる。また、指示語が示す内容が読み取ることができるように確認していく。 大切などところにサイドラインを引かせたり、要点をまとめたりして、形式段落ごとに区別できるような学習をして意識させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活に関連付けて考える力に課題がある。 グラフや資料の読み取りや活用する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に関心をもち、学習したことを社会生活に生かそうとする社会的な見方・考え方を育てる指導が大切である。 グラフや資料を読み取る力を付ける指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な資料を提示したり、体験や社会科見学の機会を設けたりし、生活と結びつけることができるようにする。分かったことを文章でまとめたり、資料を用いて説明したり話し合ったりする活動を取り入れ、よりよい社会について考える指導を充実させる。 グラフや資料の見方・考え方を捉えられるよう、読み取らせる指導を充実させる。また、様々な資料の中から自分に必要な情報を収集、選択・判断・活用・発表する力を身に付けられる指導の工夫を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分度器、三角定規、コンパスを用いて、四角形をかく学習に課題がある。 文章問題など既習事項を活用する問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質や構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながらかき方をもう一度確認し、正確にかけるように指導する。 問題で何を問われているかをしっかりと捉える指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の定義を理解できるようにし、性質や構成する要素及びそれらの位置関係を理解してかくことができるように指導する。 かく手順を示し、必要な道具を正確に使って、順序良くかくことができるように指導する。 図や数直線を提示し、「分かっていること」「求めること」を捉えるために、手がかりになる言葉を押さえるようにする。 友達の考えを知り、自分の理解を深め、集団で考えを交流する機会をつくる。 東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物や現象を、季節、気温、時間などと関係付けながら考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な動植物の観察を多く取り入れることで体験的に指導することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想することができるようにする。 予想や仮説を発想してから観察に取り組みせることによって環境と関連付けてとらえることができるようにする。 体験学習を重視すると共に、映像教材や図書資料を取り入れ、思考を深めていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら表現活動をする児童の姿が多く見られる。しかし、歌唱においては地声になったり、リコーダーでは音が強すぎたり少々乱暴な表現になることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声法や楽器の基本的奏法を学び、響きのある歌声や音色について理解を深める。また、響きのある歌声や音色について考え、表現を工夫することにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組みせる。リコーダーでは、指の押さえ方や息の強さに重点を置いて指導をする。音源や範奏を活用したり、よい表現をしている児童の演奏を聴いたりして、響きのある歌声や音色の美しさを味わわせ、表現の工夫に対する意識を高める。

	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞に関しては、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 楽しくのびのびと自分の思いを作品に表すことができる児童が多いが、発想に行き詰まったり、思い通りに表せなかったりする児童への手立てや支援が課題である。 自分や友達の作品の良いところを見つけ、感じたことを共有する鑑賞活動の取り組むことができている。美術作品についてよさや面白さを感じる力を身に付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料に触れ、手を働かせて使ったり、表し方を考えたりして表現できるような活動の場面の工夫や、学年に応じた材料や用具を題材に合わせて適切に扱うことができるようにすることが大切である。 自分や友達の作品だけでなく、身近な美術作品のよさを感じ取る鑑賞活動から、伝え合う場面を設定することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料や扱いやすい用具を使う活動から、表し方を考えて表現する活動場면을計画的に取り入れる。また、扱う材料や道具に応じた技術を身に付けられるよう、全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。 鑑賞活動と表現活動との関連を図りながら、自分たちの作品や身近な美術作品のよさや面白さについて話し合い、子供の発言やつぶやきを大切に全体に共有していく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 各領域において、個の技能を伸ばしていくことが今後課題である。 投能力も含め、体を巧みに操作することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動することの楽しさを味わわせながら、基本的な技能を身に付ける必要がある。 体づくり運動を中心に多様な運動に取り組ませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや掲示資料を工夫し、技能のポイントを分かりやすく示す。 児童が興味・関心をもち、見通しをもちながら取り組めるようにする。 計画的にグループでの教え合いの場を設定するとともに、児童相互で技能を高め、自信を付けさせるようにする。 遠くへ跳ぶ、高く跳ぶ、連続して跳ぶ、投げるなどの運動を意図的に取り入れる。 コーディネーショントレーニングを取り入れ、巧みな動きが身に付くように工夫する。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 調べる力や、資料を収集する力に差があることに課題がある。 ローマ字入力に課題がある。 学習課題を決めて、調べたことを自分の言葉でまとめることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の仕方を身に付けさせ、課題解決に合った方法で調べることができるように指導していくことが必要である。 ローマ字の学習を復習するとともに、キーボード入力に慣れさせる必要がある。 調べたことを自分の考えや生活と結び付けて考え、まとめられるよう、考えを整理・分析したり、まとめたことを表現したりする活動を取り入れることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に関連する書物を精選し、学校や地域の図書館を有効に活用する。また、情報を収集・整理・発信する学習活動を取り入れる。 情報収集をするためにパソコン等の基本操作を習得できるようにする。 課題に対する考えを深めさせるために、まとめ・表現をする活動を積極的に取り入れる。各教科や総合的な時間で学んだことが生かされるよう、年間指導計画と関連付け、言語による理解が定着するよう、繰り返し指導を行う。

<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が積極的にコミュニケーションを図れるようにするための手立てが課題である。 ・指導内容（コミュニケーション・異文化理解）のバランスの工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 ・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年は音声を聞くことが特に大事なので、ネイティブスピーカーの音声を聞かせ、復唱したり対話したりする機会を確保する。 ・英語を用いた言語活動を通して、ALTとともに体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。学習のめあてを明確にし、歌やチャンツ、アクティビティで交流や動作等を取り入れながら段階的に進める。学習のめあて等の振り返りを毎時間行い、カードに記入する。 ・1対1の対話・グループ内での対話など、対話の機会を多く取り入れる。また、会話表現を使ってアクティビティを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考え、自分なりに深めていくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多様な考えを全体で共有しながら、自己の考えを深める授業展開をすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の多様な考えや感じ方を板書し、たくさん接する機会を多く作る。多面的・多角的な考えから感じたことをワークシートに書くようにし、道徳的な価値に迫れるよう自分の考えをさらに深められるようにする。